

誕生会のお菓子は ただじゃもらえない… ウッリー！



幼稚園の頃、自分の誕生会、ウキウキしませんでしたか？その月に生まれたということだけで、みんなから注目をしてもらえるわけですから、そんなところが、うれしいのかもしれないね。

あすなろでは、誕生会の子は、ホールのステージで紹介をされて、幼稚園のみんなから祝福されます。そして、インタビューを受けます。そのあと、先生の劇などの出し物？があって、それが終わるとクラスに行って、クラスでの誕生会があります。

さて、誕生会のお楽しみは、まだあります。エンチョが、誕生会のお菓子をクラスごとに用意して、誕生会の子が取りに来るのを職員室で待っています。そんなに目新しいお菓子でもないのに、誕生会のお菓子となるとみんなウキウキします。なんで、ですかね～

でもここに、あるひとつの設定があります。じつは、エンチョは、お菓子が大好きという設定です。日頃、職員室で子どもの目の前でお菓子をムシャムシャ食べています。だから、誕生会のお菓子を用意するのも、自分のお菓子が減ってしまうのでちょっとそれはイヤだなあ…と思っています(笑)という状況設定です。



「エンチョセンセーお菓子ちょうだい」やって来ました誕生会の子たち。「えー、お菓子は、幼稚園で食べちゃダメなんだよ」とエンチョ。すると「タンジョウカイのお菓子はいいんだ！誕生会のお菓子ちょうだいよ！」「誕生会のお菓子は食べていいんだけど、残念、今日はありませーん」と知らんふりのエンチョ。でも、職員室をぐるりと見渡す年中たんぼぼさん。すると、

「あるよ、あそこ」とロッカーの上に紙袋を指さします。えっ？どこどこどこにもないじゃん、しらばっくれるエンチョ。もおー！と、ロッカーの前までどかどかに進み出て紙袋を指さします。何でコレだと思ったの？「だって『た』って書いてあるよ。たんぼぼの“た”だよ」（そうきたか！）で、ニヤリとエンチョ。

急にお腹をポンポコぽん♪と叩きます。そして「これはね“たぬき”の『た』なんだよ。あっそう言えば、たぬきさんは時々人間の子どもにバケるんだよなあ～」と言いながら、たんぼぼさんの顔をジロリと見て「あれ？もしかして“たぬき”さん？ぽんぽこぽん♪」



お腹を叩くエンチョを見ながら、ニヤリとみんなで顔を見合わせるたんぼぼさんたち。そして、自分のお腹を叩きながら「ポンポコぽん♪」だって。「なーんだ、タヌキさんだったのか。お菓子どうぞ！」もうこうなると、食いしん坊のエンチョも、どうしようもありません。見事、エンチョからお菓子をゲットしました！！

時には、年長すみれさんには「そんなに欲しいなら、じゃんけん勝負だ！負けたらこのお菓子はエンチョのモノだよ」そして、「それじゃ、おまけしてあげよう。エンチョは『グー』出してあげる！」

「だからあ～、いいね、アレを出すんだよ」（ウフフ）と言いながら（すみれは『パー』を出してくるから、『チョコキ』を出せばいい）と、すみれさんには見えないつもりで、すみれさんに見えるように、エンチョが自分の指で何を出せば勝てるのかを確認をします。

「そーれジャンケンぽん！」ヤッター！グーを出したすみれさんの勝ち！「くそっー！すみれさんはパーを出さないといけないんだよ。あー！お菓子持って行かないで～」

さて、これもれっきとした教育活動です。テーマは、「読解力」。エンチョの話や仕草の中に、お菓子をもらえるヒントが隠されています。それを読み取り何をなすべきか理解し行動をする…それが楽しめるようになれば、しめたモノです。そして、読解力のベースは、幼児期に大人がどれだけこんな対応をしてくれたかにかかります。

大人のあそびごころが 子どもの読解力を育てる

誕生会は、ママさんパパさんの見学自由です。もちろん、園長との誕生会のお菓子のやりとりも見てもらいます。だいたい、笑いながら見てくれています。じつは、特に、基幹教科である国語の学力につながる『読解力』をつけさせていくために、どんな場面でどんな言葉をかけ、どんなふうからんでいくのか…そんなヒントになればと、子どもたちとのやりとりをしているつもりでもあります。

思えば、50年前も昔の大人は子どもに、ことごとく突っかかってきましたね～（笑）。言い方を変えれば、相手にしてくれた、あやしてくれたわけです。けっこう楽しかったですよ。たとえば、おじさんの前を通ろうとすると、通せんぼ。なぜなぞを出されて、答えられないと通しくれませんでした。そんな時、

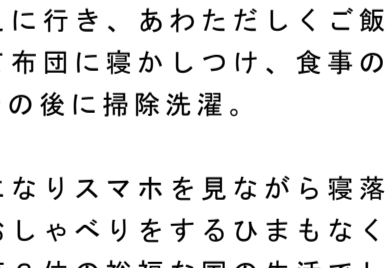
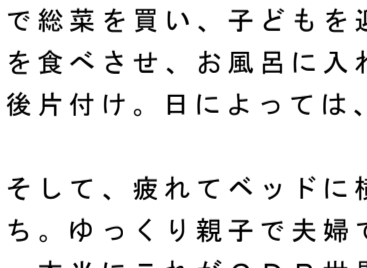
正解でなくても、その答をなんやかんやとへりくつをつけて、正解にしてくれたたりもしてくれました。時には、「お小遣いやるからツイストを踊ってみろ！」とか言われて、はり切って踊って5円玉ひとつ、もらったことも覚えています。（当時は5円でお菓子が買えました）みんな貧乏で、忙しかったけど、子どもを相手にすることをとても楽しんでいて、本当は豊かな時代だったかもしれません。

スマホとかないですし、子どももおもちゃがそんなにない時代です。だから、何を楽しんでたかと言えば、人を相手にすることだったんですね。相手をちょっとからかってみたり、つついてみたり、でも、やりすぎたら誰かがホローしてくれたり…“あやす”という感覚かなあ、でも、ケンカもよくしてましたね。笑笑。

人間関係は、面倒くさい時代でしたが、今より人と人が関わっていました。そのコミュニケーション能力が、大家族から核家族化することで途絶えてしまい、その核家族ですらひとつ屋根に住みながら食事も別々、顔を合わせても会話もなく、集まればお互いにスマホをいじっている…そんな夫婦、親子が増えているとか。

家族で生活していくには、お金が必要。だから、夫婦で働いてお金を稼ぐ。今では当たり前のことになりました。でも、長時間1日働いて、家に帰る途中のスーパーで総菜を買い、子どもを迎えに行き、あわただしくご飯を食べさせ、お風呂に入れて布団に寝かしつけ、食事の後片付け。日によっては、その後に掃除洗濯。

そして、疲れてベッドに横になりスマホを見ながら寝落ち。ゆっくり親子で夫婦でおしゃべりをするひまもなく…本当にこれがGDP世界第3位の裕福な国の生活でしょうか？私たちは、こういった生活がしくて、生きているのでしょうか？



フランスのように、共働きでも16時には仕事が終わって、買い物をして17時には家に着いて子どもたちといっしょに夕飯の支度をして、ゆっくりとおしゃべりしながらみんなでご飯を食べる。本当の豊かさがある生活。もう多くの人たちが、大量生産大量消費の資本主義経済は、この先、私たちみんなを幸せにはしないという予感を多くの人たちが感じていると聞きます。

長時間働、無理なノルマ、意味のない仕事、経済格差、環境問題など、どれも個人でどうにかなることではないと思うと、途方に暮れてしまいます。けれども、私たちが、少しでも「本当の豊かさって何なんだろう？」と考えること、少し話してみる、やってみることで変わっていくのかもしれない。

「脱成長」「脱資本主義」という方向へ進み始めている国々があります。先進国の中では、スペインがその筆頭だそう。そんな国の取り組みが、私たちの参考になるのかもしれない。注視していきたいところですね。